

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-01	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	地域少年育成活動補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	坂井	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-08-01	地域少年育成活動補助					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業		それ以外の継続事業			
開始年度	昭和 平成	41 年度	根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	子どもたちが協調性、生活能力、チームワークを学び、リーダーとして活動できるようにするため、異年齢交流・集団生活・野外生活等のグループ活動を支援する。						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」と略す）						
内容	<p>それぞれの事業に対し、事業費の一部を補助する。</p> <p>【少年キャンプ（チャレンジキャンプ）】 区主催のチャレンジ共和国に参加した小中学生等を対象に、共和国で学んだことを実地で体験し、生きる力を養うことを目的に、各地のキャンプ場等で実施 ・平成25年度：8月9日（金）～11日（日）、静岡市浜石野外センター ・平成26年度：8月7日（木・夜発、船中泊）～10日（日）、伊豆大島</p> <p>【子ども会大会】 子ども会に加入している小学生、少年キャンプ参加者等を対象に、各子ども会や子ども同士の交流等を目的にゲームやウォークラリーなどを実施（例年11月末）</p>						
経過	<p>【少年キャンプ・子ども会大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和38年度 子ども会大会を開始</li> <li>・昭和41年度 少年団体指導者研修会（リーダーキャンプ）開始</li> <li>・昭和62年度 リーダーキャンプを「チャレンジキャンプ」として拡大</li> <li>・平成12年度 荒少連への補助事業としてキャンプと子ども会大会を実施</li> </ul> <p>【わんぱく相撲】 ・昭和49年度 開始 ・平成18年度 実行委員会に対し補助金を交付</p> <p>【鉄人レース】 ・平成13年度 南千住地区の子どもたちを対象に開始 ・平成20年度 実行委員会に対し補助金を交付</p> <p>平成26年度から、組織改正に伴い、わんぱく相撲及び鉄人レースはスポーツ振興課へ事務移管し、少年キャンプ及び子ども会大会は、生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施する</p>						
必要性	子どもたちが野外活動やウォークラリー、トライアスロン、相撲等を通して、自主性や協調性、社会性を養うことは、心身の健全育成に大きく寄与するものであり、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 各主催団体に対し、区が補助する。 【主催団体】荒川区少年団体指導者連絡会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	1,716	2,245	1,745	1,818	1,818	3,711	2,163	
決算額（26年度は見込み）	1,714	2,236	1,739	1,814	1,811	3,710	2,163	
人件費等	1,017	896	1,587	2,390	1,900	582		
減価償却費			726	1,089	742	237		
【事務分担当】（%）			25	35	23	7		
合計（+ +）	2,731	3,132	4,052	5,293	4,453	4,529	2,163	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	2,731	3,132	4,052	5,293	4,453	4,529	2,163	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
キャンプ参加者（児童・生徒）	71	77	70	64	88	83	80	
子ども会大会参加者（児童・生徒・育成者）	169	195	233	173	164	202	250	
わんぱく相撲荒川区大会	327	383	467	513	530	526	437	
鉄人レースイン汐入	313	345	379	329	335	350	256	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	職員旅費	9	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	3,698	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,147
負担金補助・交付金	少年キャンプ事業補助	1,230	旅費	職員旅費	12	旅費	職員旅費	16
	職員参加負担金	18						
	子ども会大会事業補助	50						
	わんぱく相撲事業補助	370						
	鉄人レースイン汐入事業補助	135						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	キャンプ参加者数	105	132	120	120	130	運営者を含む
	子ども会大会参加者数	173	164	202	250	250	

（問題点・課題 指標分析）	補助対象事業の効果的な実施のため、子どもたちが集団生活から協調性等を学ぶのに適切な人数と期間を設定している。そのため、キャンプについては、準備会も全3回出席できる方を優先受付しているが、実施時期の7～8月は、自然まるかじり体験塾（児童青少年課）や鉄人レース（スポーツ振興課）などの実施時期でもあり、参加しやすい日程を調整する必要がある。
	（実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
効果的な事業実施を支援するため、各学校や他部署の行事予定を把握し、なるべく日程が重複しない時期に実施できるよう、調整する。	26年度の対応を継続して実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進するために、補助を継続する。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-02	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	少年教室		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	坂井	内線		3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-08-02	少年教室					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	59年度	根拠	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区小学校合宿通学事業補助金交付要綱		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちが、学校や家庭では体験できない様々な体験教室に参加することによって、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばすことができる。また、異年齢交流や学校以外の友達づくりのきっかけとなり、地域での自発的な活動につながる。						
対象者等	【チャレンジ共和国】小学3～中学生 【少年少女体験教室】小学生3年生以上 【中学生ロボコン】中学1～2年生50名 【中高生リーダー養成講座】中～高校生						
内容	【チャレンジ共和国】小学生(インフォース)約120名、中学生(マスターコース)約20名 荒川区少年団体指導者連絡会(以下、荒小連)や青少年委員連絡会との企画会議で内容を決定する。5～6月の計4～5回実施。工作、レク、調理、化学実験、モノづくりなどを実施する。 【少年少女体験教室】 ・大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう(23年度まで「ペットボトルロケットを作ろう」) 親子15組 ・荒工おもしろ体験教室...3コース(サトプラストのコップ作り・電子工作(ホイロクター)・うちわ)、各定員30名 【中学生ロボコン】定員50名 ロボット製作と競技会を実施。準備会12～1月に6回(最終日高専大会)、北区大会2月、産業展大会3月、エキシビジョンマッチ大会4月 【中高生リーダー養成講座】 イベントの企画・運営、レクの実習等を行う						
経過	【チャレンジ共和国】 昭和59年度開始 【少年少女体験教室】 平成5年度開始 ・荒工おもしろ体験教室：平成12年度開始 ・ペットボトルロケット(高専おもしろ教室)：平成13年度～23年度 ・大きな紙ヒコーキ(高専おもしろ教室)：平成24年度～ 【中学生ロボコン】 平成13年度開始 【中高生リーダー養成講座】 平成20年度から中高生リーダー研修として実施、平成23年度に改称 平成25年度はスケジュール上の都合で実施なし 【合宿通学】 平成11年度に試行的に実施、平成13年度から実行委員会形式で実施し、補助金を支出 平成26年度から、事務執行については、合宿通学は教育総務課、それ以外は地域文化スポーツ部生涯学習課が教育委員会事務の補助執行として実施することとなった						
必要性	直接体験が不足している中、子どもの体験活動の機会を増やし、興味や関心を高めるとともに、共同作業を通して協調性や自主性を養う事業であり、必要性は高い。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) チャレンジ、養成講座...共催：荒小連/体験教室...共催：荒工/紙ヒコーキ...協力：産技高専/ロボコン...共催：北区教委,自然科学フォーラム,協力：産技高専/合宿通学...主催：実行委員会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,492	1,695	1,767	1,660	1,678	1,606
決算額（26年度は見込み）		1,216	959	907	1,222	1,249	1,103	801
人件費等		6,522	7,006	6,175	9,327	8,330	6,704	
減価償却費				4,038	5,007	6,325	4,157	
【事務分担当】（%）				139	161	196	123	
合計（+ +）		7,738	7,965	11,120	15,556	15,904	11,964	801
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		7,738	7,965	11,120	15,556	15,904	11,964	801
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	チャレンジ共和国参加者数	191	174	176	226	233	184	184
	少年少女体験教室参加者数	145	153	106	136	113	112	110
	中学生ロボコン参加者数	36	43	48	42	41	48	50
	合宿通学（参加者数/実施校）	175 / 8	160 / 8	184 / 9	184 / 9	164 / 9	177 / 9	185 / 9

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	445	負担金補助等	合宿通学事業補助金	597	報償費	謝礼	520
職員旅費	中高生宿泊研修日当	0	報償費	謝礼	312	需用費	消耗品費	273
一般需用費	消耗品費	235	需用費	消耗品費	194	使用料等	中高生宿泊研修会場使用料	8
使用料	中高生宿泊研修会場使用料	0	使用料等	中高生宿泊研修会場使用料	0			
負担金補助・交付金	合宿通学事業補助金	569						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	チャレンジ共和国（参加者数）	226	233	184	184	180	講座内容に合わせて、適正規模の定員を設定する
	少年少女体験教室・中学生味'ン（参加者数）	178	154	160	160	180	
	合宿通学（参加者数）	167	185	177	185	220	

（問題点・課題分析）	<p>【チャレンジ共和国】 例年、毎年定員を上回る応募があるが、スタッフを確保し、実施方法を工夫して全員受入れている。講座内容、育成者の人員に合わせた、適正規模(人数)の検討が必要である。</p> <p>【荒工おもしろ体験教室】 コースによって参加希望者数に差があり、抽選が必要なコースと全員受入れ可能なコースがある。参加希望が多いコースは定員を増やすなどの対応を検討する。</p>
	<p>他区の実況</p> <p>（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）</p>

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
チャレンジ共和国においては、できるだけ多くの子どもが参加できるよう、講座内容・育成者の人員を検証し、定員の増加ができるか検討する。	26年度の検討結果を踏まえ、なるべく多くの子どもを受け入れられるようにする。
荒工おもしろ体験教室においては、参加希望が多いコースの定員を増加できるか検討する。	26年度の検討結果を踏まえ、定員増について荒工と調整する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

議（要旨）	
-------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	09-02-06	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	小中学生と乳幼児との交流		部課名	子育て支援部児童青少年課	課長名	根本	
			担当者名	久松	内線	3807-4720	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-04-01	小中学生と乳幼児との交流事業費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業		それ以外の継続事業			
開始年度	昭和 平成	18年度	根拠法令等	なし			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	小中学生が、乳幼児とのふれあいや交流を通じ、子育ての楽しさや生命の尊さ等を体験し、子育てに希望をもてる大人へと成長できるよう支援する。						
対象者等	ひろば館やふれあい館で実施している「乳幼児タイム」等に参加している乳幼児と、小中学校の児童生徒						
内容	各ひろば館を利用する保護者や近隣の小中学校に当該事業を周知し、ひろば館で実施する様々な乳幼児事業へ小中学生の参加を得て、乳幼児との交流を図る。 事業運営にあたっては、小中学生が参加しやすい夏休み等を中心に交流事業の運営を行う。 また、年間を通してひろば館の各種事業等にも継続して参加できるよう、意見を聴きながら活動の機会を広げていく。						
経過	平成16年度に次世代育成支援行動計画の中で、次世代育成について、ひろば館やふれあい館で支援することのできる事業を検討し、新生プランに新規事業として組み入れ、平成17年度は尾久ひろば館で試行。 18年度から南千住・花の木・町屋・尾久・西日暮里の各ひろば館で実施。 20年度から南千住・花の木・町屋・尾久の各ひろば館で実施。・西日暮里（20年度廃止） 24年度から花の木・熊野前・西日暮里二丁目の各ひろば館で実施（南千住・町屋・尾久ひろば館は、ひろば館の閉館により廃止）						
必要性	少子化が進む中で、小中学生と乳幼児が交流し、子育ての楽しさや生命の尊さを体験することは、子育てに希望を持てる大人へ成長するうえで必要である。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		418	449	426	156	117	117
決算額（26年度は見込み）		403	371	195	53	88	88	111
人件費等		7,322	7,045	10,464	11,131	6,719	7,764	
減価償却費				3,486	4,510	3,969	4,698	
【事務分担量】（％）		90	90	120	175	123	139	
合計（ + + ）		7,725	7,416	14,145	15,694	10,776	12,550	111
特定財源	国							
	都	子供家庭支援包括補助	90	202	78	58	44	58
	その他							
一般財源		7,725	7,326	13,943	15,616	10,718	12,506	53
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	実施回数	21	22	21	21	16	16	10
	小中学生参加数	127	131	137	141	141	134	70

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	消耗品購入	70	需用費	事業用消耗品	72	需用費	事業用消耗品	84
役務費	ボランティア保険料	18	役務費	ボランティア保険料	16	役務費	ボランティア保険料	27
備品購入費								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	参加小中学校数（小・中）	8・5	7・3	7・5	6・4	6・4	実施ひろば館:3館(26年現在)
	参加親子（組・人）	472・994	384・1129	311・1206	300・1000	300・1000	小中学生が参加する乳幼児タイム 参加親子
	実施回数（回）	21	16	14	10	10	19年度5館 20～23年度4館 24年度から3館(ふれあい館2館)

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校との連携を図り、年間を通して様々な企画に取り組むとともに、児童・生徒一人一人の活動を評価し、継続参加の励みとなるような方法が求められる。</li> <li>・自発的に乳幼児との地域交流活動に参加できるよう、プログラム作成の工夫が必要である。</li> <li>・ひろば館の閉館及びふれあい館整備に伴い、ふれあい館での事業展開も必要となっており、地域振興課との事業調整・連携が必須である。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
ふれあい館との連携を図り、事業実施の拡大を進める。	年間を通して、交流事業への小中学生の参加定着と、参加への意欲を高め、慰労と評価を兼ねる方法へと進化させる。
小中学生と乳幼児親子との交流を継続し、交流事業を定着させる。	小中学生が、自発的に乳幼児との地域交流活動へ参加できるよう、子ども会議等のプログラムを充実させる。
事業の安定化を図るため、既存の事業プログラムをもとに事業運営のマニュアルの作成を行う。	ふれあい館との連携を図り、事業の実施と拡大を進める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	次代を担っていく小中学生に、子育ての楽しさを感じる機会を作ること、次世代育成支援策として大変重要であるため、優先度が高い。

議（要旨）	況（要旨）
-------	-------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-01-15	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	合宿通学		部課名	教育委員会事務局教育総務課	課長名	丹	
			担当者名	湯田、宮島	内線	3311	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-01	地域連携事業費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	11年度	根拠法令等	荒川区立小学校合宿通学事業補助金交付要綱		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	子どもたちが、親元を離れ、異年齢での共同生活や地域での体験活動しながら通学することにより、家庭の大切さを認識するとともに、協調性や自立心を高め、「生きる力」をつける機会となる。また本事業を通じ、地域・学校・行政が連携していくことで、「地域の教育力」が向上する。						
対象者等	実施校の小学校4年生～6年生						
内容	<p>事業形態 各実施校単位で町会、PTA、青少年委員、青少年育成地区委員、商店街などによる実行委員会を組織し、企画・運営に当たる。実施に当たっては2～4人のボランティアが共に宿泊し、買い物、食事づくりなどにおいて安全確保と必要な支援を行う。</p> <p>実施期間 2泊3日～3泊4日程度</p> <p>宿泊施設 各学校の地元町会会館や商店街会館などを借り、入浴は施設の近くの銭湯へ通う。</p> <p>地域体験 商店街のお手伝い、朝市のお手伝い、保育園での保育体験、工場見学、地域清掃活動など</p> <p>経費負担 参加者は受益者負担分（食費・銭湯代・保険料）を負担する。区は実施校で設置する実行委員会に対し、補助金（ボランティア謝礼・布団リース代・事務費等）を交付する。その他、H14から独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」の助成を受けている。</p>						
経過	<p>実施の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成11年 施行的に実施（尾久）・平成12年 2校（峡田、尾久）</li> <li>平成13年 実行委員会形式で実施し、補助金を支出 4校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡）</li> <li>平成14年 6校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡）</li> <li>平成15年 7校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、二日）</li> <li>平成16年 9校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、七峡、二日、尾久六）</li> <li>平成17～21年 8校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、七峡、二日）</li> <li>平成22～25年 9校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、七峡、二日、汐入東）</li> <li>平成26年 8校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、七峡、二日、汐入東）</li> </ul> <p>組織改正に伴い平成26年度から、教育総務課に事務を移管（平成25年度までは社会教育課）</p>						
必要性	様々な体験を行うことが不足している子どもの「体験」する機会を増やし、協調性を養うために必要である。「地域の教育力」向上のため必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 主催は各合宿通学実行委員会。各学校が運営を支援。職員は、補助金交付事務、開校式出席、実施に当たっての指導・助言等を行う。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額						-	800	800
決算額（26年度は見込み）						-	597	800
人件費等								
減価償却費								
【事務分担当】（%）								
合計（+ +）	0	0	0	0	0	597	800	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	0	0	0	0	0	597	800	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
実施校（校）	8	8	9	9	9	9		
参加者（名）	180	156	184	167	164	177		
ゆめ基金交付額（千円）	647	707	502	550	587	550		

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
			負担金補助等	合宿通学事業補助	597	負担金補助等	合宿通学事業補助	800

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
	参加者数（名）	167	164	177	175	220	
標	実施校（校）	9	9	9	8	11	

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校が増えない。</li> <li>・年々宿泊数が減ってきている。</li> <li>・学校行事ではないが、学校の負担がある。</li> <li>・宿泊を伴うボランティアを確保できない。</li> <li>・男女が分かれて宿泊できる会場が少ない。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 1 区 未実施 21 区 不明 0 区） 江東区（8校） 台東区は平成24年度まで実施

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	ボランティアの確保について、荒少連のシニアリーダー部等に依頼したり、確保への支援を強化する。	26年度の改善内容を継続して推進し、ボランティアを確保していく。
	第二日暮里小学校が「夕やけこやけふれあい館」で実行した結果を検証し、公共施設の活用を検討する。	26年度の改善内容を継続して推進し、会場を確保していく。
	学校（副校長）の負担が大きくならないよう、地域の協力を求めたり、事務の補助等を行う。	26年度の改善内容を継続して推進していく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	学校・地域・行政が連携し、子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

議（要旨）	H11予算特別委員会 合宿通学の提案
-------	--------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-03-36	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	下田臨海学園	部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	佐藤	担当者名	芦川
		01-01-01	管理費			内線	3332
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-01-02	給食賄				
		01-01-03	運営費				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 平成	43年度	根拠法令等	荒川区立夏期学園条例			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	区立小学校の児童が、日頃学校で経験することのできない自然豊かな海辺で規則正しく生活しながら、伊豆地方の地形、産業、海辺の動植物等の観察及び学習並びに水泳を中心とした心身の鍛錬を行うことにより、体力向上を図るとともに、豊かな情操を養うことを目的とする。						
対象者等	小学校5年生 5年生の児童数の少ない学校は4・5年生合同参加（4,5年生合同実施校は、二つのグループに分け、清里高原学園と交互に実施。二峡、二日、尾久宮前二瑞、六瑞、三峡、九峡、一日、六日）						
内容	学校の夏季休業中、2泊3日で下田臨海学園に宿泊し、外浦海岸海水浴場で水泳を行うほか、海辺での自然観察、磯遊び、レクリエーション等を行う。 小規模校が隔年参加のため、「21校参加の年度」と「18校参加の年度」があり開設期間が異なる。臨海学園の開設期間は、21校参加の年度は7月21日～8月12日頃まで、18校参加の年度は7月21日～8月10日頃までである。 学校が滞在している間の基準日課（2泊3日） 1日目 午前：電車及びバスにて移動 午後：昼食、午睡、遊泳、入浴、夕食、自由時間 2日目 午前：朝礼、朝食、自由時間、遊泳 午後：昼食、午睡、遊泳、入浴、夕食、自由時間 3日目 午前：朝礼、朝食、自由時間、各校による活動時間 午後：昼食、電車及びバスにて移動 児童1人あたりの標準負担額 約5,500円（交通費約3,500円、賄費2,000円）						
経過	昭和43年 下田市から旧柿崎小学校の施設を買い取り、「下田臨海学園」を開設。当時は中学校のみ利用 昭和48年 小中学校合同利用開始 昭和63年 施設を改築 平成10年 利用対象を小学校のみに変更 平成20年 管理業務及び遊泳監視業務の一部を委託化 平成25年 屋内給排水工事を実施						
必要性	夏季休業中の実施であるため児童は任意参加だが、例年9割以上が参加。児童参加率は高く、各学校の取組みも積極的であり、事業の必要性は高い。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 夏期学園開設期間中は、学務課職員が交代で常駐。遊泳監視員は、平成20年度より各学校から希望する教諭と業務委託先職員で編成。常駐看護師、給食賄、管理業務は平成20年度より業務委託。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	59,482	137,595	56,569	44,591	42,425	78,164	100,703	
決算額（26年度は見込み）	54,337	125,576	51,353	35,211	34,159	70,887	100,703	
人件費等	4,235	4,072	3,488	4,235	2,891	3,327		
減価償却費			1,162	1,555	1,129	1,352		
【事務分担量】（%）	50	50	40	50	35	40		
合計（+ +）	58,572	129,648	56,003	41,001	38,179	75,566	100,703	
特定財源								
国								
都								
その他 賄収入	2,218	2,723	10,485	2,696	2,458	2,830	2,768	
一般財源	56,354	126,925	45,518	38,305	35,721	72,736	97,935	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
参加学校数	17	21	18	22	18	21	18	
参加児童数	1,102	1,275	1,177	1,303	1,196	1,443	1,293	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
職員旅費	事務従事	435	工事請負費	屋内給排水工事	32,919	工事請負費	屋外給排水工事	49,221
特別旅費	児童引率	0	旅費	事務従事、児童引率等	558	旅費	事務従事、児童引率等	4,381
光熱水費	電気・水道・ガス等	4,784	光熱水費	電気・水道・ガス等	5,494	光熱水費	電気・水道・ガス等	5,697
一般需用費	一般需用費	1,999	一般需用費	消耗品・家屋等修繕費等	2,718	一般需用費	消耗品・家屋等修繕費等	1,797
役務費	清掃手数料・電話料等	726	役務費	清掃手数料・電話料等	652	役務費	清掃手数料・電話料等	788
委託料	給食業務、設備保守等	19,027	委託料	給食業務、設備保守等	21,310	委託料	給食業務、設備保守等	30,901
使用料及び賃借料	温泉使用料等	2,584	使用料及び賃借料	温泉使用料、寝具賃借料等	2,821	使用料及び賃借料	温泉使用料、寝具賃借料等	3,072

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	児童1人当たりコスト（円）	29,398	29,867	49,124	77,883	73,667	歳出決算額（一般財源）/児童数

（問題点・課題分析）	<p>・昭和63年の改築以来、施設の老朽化と設備の経年劣化が進んでおり、計画的な修繕や更新が必要である。「荒川区公共建築物中長期改修実施計画」に基づき、26年度に屋外給排水工事を実施することで中規模改修が完了する。しかし、経年劣化により小規模修繕が発生した場合は、別途対応が必要となる。</p> <p>・管理運営等業務を委託後も光熱水費支払や設備等の保守委託を区が行い、夏期の開設中は区職員を派遣しているなど、業務の非効率が生じている。</p>
	<p>（実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区）</p> <p>未実施2区の内訳 小・中学校とも夏期施設未実施 1区（杉並区） 小学校の夏期施設なし 1区（練馬区）</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	屋外給排水設備の他、便所や建具の改修工事を行う。	改修工事実施箇所以外の老朽化設備の修繕や更新を行う。
	25年度の契約内容見直しを受けて、新たな課題等があれば引き続き検討を行う。	保守契約や修繕契約などの契約内容や契約先を見直し、更なる費用の縮減が可能か検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	水泳を中心とした心身の鍛錬は学校では体験できないものであり、優先度は高い。

議（要旨）	
況（質問状）	

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-03-37	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	清里高原学園	部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	佐藤	担当者名	渡邊
				内線	3331		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-02-01	給食賄					
	01-02-02	参加児童交通費					
	01-02-03	運営費					
事務事業の種類	新規事業	（26年度	25年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	58年度	根拠	荒川区立夏期学園条例、荒川区立夏期学園参加費用取扱要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	豊かな自然の中での生活を経験することにより、自然や動植物を愛する心を養い、現地の地理や歴史に親しんで、理科及び社会科の学習の向上を図る。団体行動やレクリエーションをとおして、相互の友情を深め、他人を尊重する精神を培うとともに、社会生活における規律を学びとる。						
対象者等	小学校4年生 4年生の児童数の少ない学校は4・5年生合同参加（4,5年生合同実施校は、二つのグループに分け、下田臨海学園と交互に実施。二峡、二日、尾久宮前二瑞、六瑞、三峡、九峡、一日、六日）						
内容	<p>学校の夏季休業中（初日～お盆前後）、2泊3日で清里高原学園に宿泊し、野外活動・集団体験活動を行う。自己負担額は、交通費約4,000円、食事代2,000円。</p> <p>清里周辺には、自然や動物、昆虫をテーマにした施設があり、学校はこうした施設を見学するほか、レタスや桃の収穫体験等を行っている。また、ハイキングコースを歩いたり、現地施設のそばで川遊びを行ったりしている。夜はキャンプファイヤーや花火、レク活動を行っている。</p> <p>毎年度、実施要項を定めるとともに、実施説明会を開催。また6月上旬には、安全確認、適切な指導を目的に、担当校長と各校の担当教員、学務課職員により実地踏査を行い、現地施設や見学場所の状況、ハイキングコースの状況等を確認している。</p>						
経過	昭和40年～55年	那須高原荘において林間学園を実施					
	昭和56年～57年	那須高原荘が区民保養所になるため、清里高原学園建築工事					
	昭和58年4月	那須山水閣において林間学園を実施 「清里高原少年自然の家」が開設					
必要性	夏季休業中の実施であるため児童は任意参加だが、普通の学校生活では体験できない自然の中での野外活動、集団体験活動を行うことができる事業として必要性は高い。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 各学校が事業実施。開設・閉設時は学務課職員が現地に赴き、調整を行う。期間中は、施設の管理業者が補助。現地の常駐看護師は、平成16年度から「看護業務委託」としている。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		20,713	19,946	24,301	19,097	21,069	19,538
決算額（26年度は見込み）		17,972	16,573	19,841	14,477	17,634	17,835	22,367
人件費等		1,694	1,629	1,308	1,694	2,065	3,327	
減価償却費				436	622	807	1,352	
【事務分担当】（%）		20	20	15	20	25	40	
合計（+ +）		19,666	18,202	21,585	16,793	20,506	22,514	22,367
特定財源の推移	国							
	都							
	その他	清里高原学園賄収入	2,455	2,348	2,744	2,696	2,753	2,509
	一般財源	17,211	15,854	18,841	14,097	17,753	20,005	19,487
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	参加校数	21	17	22	18	21	18	21
	参加児童数（26年度は見込み）	1,228	1,177	1,375	1,170	1,379	1,255	1,417

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
使用料及び賃料	バス、施設使用料ほか	16,869	使用料等	バス、施設使用料ほか	17,204	使用料等	バス、施設使用料ほか	20,749
職員旅費	実地踏査、開設・閉設	63	旅費	実地踏査、引率等	87	旅費	実地踏査、引率等	691
特別旅費	実地踏査、児童引率	7	一般需用費	しおり経費	69	一般需用費	しおり経費	105
一般需用費	しおり経費	89	役務費	応急治療費	5	役務費	応急治療費等	62
役務費	応急治療費	9	委託料	現地看護業務	470	委託料	現地看護業務	760
委託料	現地看護業務	597						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	児童1人当たりコスト（円）	12,048	12,873	12,211	12,745	13,752	歳出決算額（一般財源）/ 参加児童数

（問題点・課題分析）	・登山コースには通行止めの箇所や険しい箇所があるため、児童の安全の確保のため実地踏査を行い、課題があった場合は適宜対応する必要がある。
	（実施 11 区 未実施 11 区 不明 0 区） 未実施 11 区の内訳 小・中学校とも夏期施設未実施 5 区（墨田、太田、中野、杉並、足立）、小学校の夏期施設なし 3 区（目黒、板橋、練馬）、小学校は臨海学園のみ実施 3 区（千代田、中央、文京）

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	児童の安全の確保のため、登山コース、ウォーキングコースについて、実地踏査により現地の状況を確認する。	児童が安全かつより充実した活動ができるようになるため、実地踏査において確認をする施設、登山コース、ウォーキングコースの見直しを行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	高原の自然や天体観測など都会では体験できないものである。移動教室と役割分担を図りつつ推進していく。

（議会要旨）	
--------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-03	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	ふれあい教育の推進		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	
			担当者名	末永、原田、石井	内線	3384	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-12-01	ふれあい教育の推進					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	7 年度	根拠	学習指導要領に準拠			
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区街の先生教室実施要綱			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画		
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	21世紀を心豊かにたくましく生きる子供たちを育成するためには、多くの人々とふれあう豊かな体験活動が必要である。 そこで、次代の荒川区を担う子供たちに、地域の特性を生かしたボランティア活動や地域体験学習等を取り入れた学校教育を推進し、郷土愛や福祉の精神の涵養などを図るとともに、豊かな心を育成する。						
対象者等	ふれあい教育.....区立全幼稚園、小・中学校 小・中学校地域社会体験教室.....区立全小・中学校（地域の事業所等での職業体験、ボランティア体験） 街の先生教室.....区立全小・中学校（地域人材による学校への出前授業）						
内容	1 「ふれあい教育の推進月間」（区立全幼稚園、小・中学校）年間2回（6月、11月） ・地域における福祉施設や高齢者施設、異校種等での奉仕活動・高齢者、障害者、心障学級、幼児、外国人、地域の方などとの交流 2 地域社会体験教室（平成14年度～小中全校実施、平成19年度～小全校実施、中学校は希望校のみ実施）地域の企業・商店等での職業体験や福祉施設等でのボランティア体験を通して地域を愛する心や思いやりの心を育む 3 街の先生教室（区立小中学校の全学級を対象）専門的な技術や、優れた能力をもつ地域の方々を指導者として迎え、子供たちの授業に対する意欲を高めるとともに地域に目を向け、地域に対する誇りを培う。各学級あたり年間1～2回程度 4 スクールサポート・教育活動への支援...図書室ボランティア、学校公開週間の安全管理補助員派遣等 5 鮭の里親事業・山形県鮭川村との連携により鮭の稚魚の育成、放流を尾久宮前・二日小で実施						
経過	平成7年度から順次実施。 平成25年度から鮭の里親事業は、文化交流推進課から移管。 平成26年度から街の先生教室は、学校パワーアップ事業と統合。						
必要性	次代を担う荒川区の子ども達が心豊かにたくましく生きるためには、多くの人々とふれあうことが不可欠						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		3,073	3,113	3,270	2,754	2,746	3,359
決算額（26年度は見込み）		1,982	1,840	1,791	2,013	2,049	2,483	1,807
人件費等		847	1,628	436	423	519	705	
減価償却費				145	156	420	507	
【事務分担量】（%）		10	20	5	5	13	15	
合計（+ +）		2,829	3,468	2,372	2,592	2,988	3,695	1,807
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		2,829	3,468	2,372	2,592	2,988	3,695	1,807
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	ふれあい教育展示会（延日数）	20	20	20	20	20	20	20
	地域社会体験教室	24	24	24	24	24	24	24
	街の先生教室延べ実施回数	252	225	230	229	257	272	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	街の先生教室講師謝金	1,285	報償費	街の先生教室講師謝金	1,360	需用費	消耗品費	1,130
一般需用費	消耗品費（令達・こども園）	0	使用料等	施設使用料、バス借上げ	122	使用料等	施設使用料、バス借上げ	415
	消耗品費（令達・幼）	43	旅費	引率教員旅費	113	役務費	郵便料、資材運搬料	221
	消耗品費（令達・小）	622	負担金補助等	参加児童交通費	84	委託料	車両運転手代	41
	消耗品費（令達・中）	99	一般需用費	消耗品費（令達・こども園）	56	報償費	学校パワーアップ（てらこや）へ移行	0
				消耗品費（令達・小）	664			
役務費				消耗品費（令達・中）	84			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	中学校ボランティア体験の向上	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数 / 学校数
	小学校職業体験の工場	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	実施数 / 学校数

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の視点を明確にし、多様な体験活動となるような工夫・改善が望まれる。</li> <li>・荒川区社会福祉協議会、区民生活部、産業経済部、子育て支援部との連携を図り、本事業の充実に努めていくこと。</li> <li>・各校からの掲示物をスポーツセンター等、複数の関係機関に掲示する必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 18 区 未実施 4 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
より実践的な職業観、人生観を育成する取組を実施する。	キャリア教育に関連する事業の整合性を図るよう検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	地域と一体となった教育の充実を目指す。

議（要旨）	平成10年度 第2回定例会「学校教育にボランティア活動を導入することについて」
-------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-04	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	体験学習推進事業（学校農園、体験型職業教育の推進）		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	
			担当者名	末永、中里、石井	内線	3384	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-13-01	学校農園					
	01-13-02	体験型職業教育の推進					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	12年度	根拠	学校指導要領に準拠		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区学校農園実施要綱		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	・自ら課題をもち、自ら考え、自ら解決するなどの「生きる力」を育成するためには、体験学習の機会を拡充することが求められている。自然体験、社会体験、勤労体験等の機会拡充を図る。 ・「総合的な学習の時間」等の学習単元として教育課程に位置づけ、児童・生徒一人一人が自己の生き方を考える啓発的体験として、教育活動全体の中で意図的・計画的に取り組む。						
対象者等	区立小・中学校の児童・生徒						
内容	[学校農園] 農園所在地・足立区扇二丁目3878番地 広さ・約1,035㎡ ・総合的な学習等、教育課程に位置づけて実施する。・収穫した作物を給食の食材としたり、栽培した草花を地域の施設に寄贈するボランティア活動に生かしたりするなど、他の活動へ発展させることで豊かな人間性を育む。・22年度...一日、三日、大門、峡田 ・23年度...一日、三日、大門、峡田、尾久西 ・24年度...一日、尾久宮前、大門、峡田、尾久西 ・25年度...一日、尾久宮前、大門、峡田 [体験型職業教育の推進] (1)勤労体験プログラムの実施・平成19年度から、中学校においては、学校と幅広く企業等の協力を得て、一週間程度の集中した「勤労体験留学」を全校実施する。 (2)勤労留学（職業講話 職場訪問 勤労留学（本プログラムの中核） 新聞作成 発表会 ・授業時間や夏休み等 一週間程度集中実施（一日6時間程度）・仕事の手伝いではなく仕事そのものを体験する。・子どもたち自身が自己の生き方を考える。						
経過	19年度から勤労留学は、全校にて実施した。						
必要性	学校農園については、自然に親しみ、環境保全の意識を高める。体験型職業教育の推進では、働くことの価値を、体験を通して理解する。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	7,950	7,793	8,212	7,101	6,913	6,503	5,493	
決算額（26年度は見込み）	3,373	4,855	4,945	5,069	4,952	4,831	5,493	
人件費等	1,271	2,444	1,308	1,693	684	2,784		
減価償却費			436	623	484	1,352		
【事務分担量】（%）	15	30	15	20	15	40		
合計（+ +）	4,644	7,299	6,689	7,385	6,120	8,967	5,493	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	4,644	7,299	6,689	7,385	6,120	8,967	5,493	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
農園活用校	1	3	4	5	5	4	4	
勤労体験留学モデル校	10	10	10	10	10	10	10	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	農園指導者謝金	300	報償費	事業所謝金	2,108	報償費	事業所謝金	2,779
一般需用費	種苗、肥料等購入	25	負担金補助等	生徒交通費	619	負担金補助等	生徒交通費	904
使用料	バス借上げ	120	役務費	細菌検査料、保険料	424	需用費	肥料、種苗、消耗品等	800
報償費	事業所謝金	2,352	報償費	農園指導者謝金	300	役務費	細菌検査料、保険料	386
一般需用費	手土産代等	1,193	需用費	肥料、種苗、消耗品等	1,256	報償費	農園指導者謝金	300
役務費	保険料	240	使用料等	バス借上げ	100	使用料等	バス借上げ	247
	細菌検査代	123	旅費	巡回旅費	24	旅費	巡回旅費	77

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
	学校農園実施率	0.208	0.208	0.208	0.208	0.208	実施数 / 小学校数
標	勤労留学実施率	1	1	1	1	1	実施数 / 中学校数

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農園までの交通が不便なので、子どもたちが足を運ぶ機会が少なくなってしまい、体験回数が限られてしまう。</li> <li>・学校規模によっては、生徒の人数が多く、勤労留学を受け入れてくれる事業所を探すことに苦労している。また、5日間連続での受け入れを断られる場合も少なからずある。</li> </ul>
	<p>（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）</p> <p>全区において1日から5日の中学生の職場体験学習を実施している。本区では平成19年度から連続5日間の実施をする。平成20年度から全校において連続5日間の実施を目指している。</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
各校へ学校農園についてPRを行っていく。	学校農園の活用について、各校へ推進を促す。
勤労留学に対する区全体の協力体制をつくっていく。	勤労留学を受け入れてくれる事業所の協力を促す。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	地域と連携し勤労留学を全校実施する。

議（要旨）	H17.1定 「生きる力の育成の取り組みについて」
-------	---------------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-05	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	ようこそ青年海外協力隊		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	
			担当者名	佐藤（陽）、佐野	内線	3384	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-13-03	ようこそ青年海外協力隊					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠	学習指導要領に準拠，荒川区教育委員会と独立行政法人国際協力機構広尾センター		
終期設定	有	無	年度	法令等	行政法人国際協力機構広尾センター		
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	我が国とは異なる歴史や文化、人々の価値観をもつ様々な国々において、技術や知識を活かして開発途上国の国づくり、人づくりに身をもって協力してきた青年海外協力隊員の方々を学校に招き、現地での体験談とともに、子どもたちへの熱いメッセージをいただき、子どもたちの夢や希望を育もうとするものである。						
対象者等	小学校5～6年生及び中学校全学年のうち、任意の学年（学級単位）						
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年海外協力隊として海外で活動した経験をもつ方や、JICA職員などを講師に招き、農林水産、土木建築、教育文化、スポーツなど7部門140種の分野から、体験談を通して子どもたちの夢や希望を育む。あわせて、事前の調べ学習や事後の感想文作成等により、一層の効果の向上を図る。</li> <li>・実施形態は、講話または交流会とし、一回2時間程度とする。</li> <li>《これまでの実績》</li> <li>・青少年活動の講話「ニカラグアの子供たちの生活」講師：JICA職員</li> <li>・「ウガンダでの村落開発活動や小学校周辺住民への知識普及活動とウガンダの様子について」講師：JICA職員 等</li> </ul>						
経過	JICA本部と実施に向けて検討を重ね、平成18年度からモデル授業を行い、全校実施となった。						
必要性	将来に向けて夢や希望をもって、これからの人生を切り拓いていく子どもを育成するために必要な事業である。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	702	666	711	711	684	657	711	
決算額（26年度は見込み）	486	567	594	630	585	612	711	
人件費等	424	407	436	0	1,239	253		
減価償却費			145	0	484	169		
【事務分担当】（%）	5	5	5	0	15	5		
合計（+ +）	910	974	1,175	630	2,308	1,034	711	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	910	974	1,175	630	2,308	1,034	711	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
実施校数	34	34	34	34	34	34	34	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝金	585	報償費	講師謝礼	612	報償費	講師謝礼	711

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
	全校実施	1	1	1	1	1	実施数 / 小5、小6、中1クラス数

（問題点・課題分析）	・教育課程への位置付けを明確にし、「街の先生教室」との違いについて明らかにするとともに、児童・生徒に勤労観を醸成させる。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） 本区の独自の取り組みであり、他区には実践例は無い。
（状況の実）	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	教育委員会、JICA及び学校との連絡調整を十分に行い、さらに質の高い、効果のある講演になるようにする。	教育課程への位置付けを明確にし、「街の先生教室」との違いについて明らかにする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	夢を育む事業として定着を図る。

（議会要旨）	
--------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-06	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	清里移動教室		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	
			担当者名	阿部	内線	3381	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	清里運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	58年度	根拠法令等	移動教室（清里）実施要綱		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	教育課程の一環として移動教室を実施することにより、児童の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養う。また、集団行動集団生活を体験させることによって、連帯感や責任感及び自主的な生活態度を育成する。						
対象者等	・小学校5年生、中学校1年生（全員） 【実施時期】前期5月～7月 後期9月～10月						
内容	【活動例】・清里周辺施設クラインガルテン、須玉町農業体験施設での農業体験やほうとう作り そば打ち体験、清泉寮及び清里駅周辺散策、飯盛山登山、学園での現地学習会 ・清泉寮及び清里駅周辺散策 ・南牧村交流館見学・飯盛山登山 ・入笠山登山・オリエンテーリング（清里少年自然の家～美し森展望台）・キャンプファイヤー ・山梨県立考古博物館での火おこし体験や見学 【運営経費】 ・賄費（朝・昼・夕）指定管理者 ・交通費（小学、中学3日間借上げ）・現地指導員謝金 ・職員旅費 引率教員旅費 ・応急治療費・緊急自動車・看護業務委託						
経過	昭和58年より実施している。						
必要性	児童・生徒の連帯感や責任感、自主的な生活態度を育成するために必要。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） ・看護業務委託（25年度委託料（決算額）1,981,980円（清里分 1,045,538円）, (株)イノグー-ル東京本社）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	35,943	35,463	37,485	34,489	35,303	35,975	37,549	
決算額（26年度は見込み）	30,687	30,339	30,313	28,927	30,255	32,902	37,549	
人件費等	1,335	2,363	2,581	3,359	1,896	2,025		
減価償却費			1,453	1,866	2,259	2,366		
【事務分担量】（%）	30	50	50	60	70	70		
合計（+ +）	32,022	32,702	34,347	34,152	34,410	37,293	37,549	
特定財源								
国								
都								
その他	清里高原移動教室賄収入	4,323	4,427	4,747	4,454	4,767		
一般財源		27,699	28,275	29,600	29,698	29,643	37,293	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	小学校 参加児童数	1224	1199	1340	1285	1297	1363	1400
	バス借上げ台数	40	41	46	44	43	47	47
	中学校 参加生徒数	938	1015	1033	943	1087	1106	1095
	バス借上げ台数	29	32	34	29	35	35	37

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	現地指導員謝金	176	使用料等	給食費、施設使用料、バス借上げ	31,033	使用料等	給食費、施設使用料、バス借上げ	33,746
旅費	実地踏査、引率教員、従事職員旅費	127	委託料	看護業務委託	1,040	委託料	看護業務委託	1,363
一般需用費	児童・生徒用しおり・消耗品費	542	需用費	児童用しおり、生徒読本	449	旅費	実地踏査、引率教員、従事職員旅費	1,261
役務費	応急治療費	5	旅費	実地踏査、引率教員、従事職員旅費	183	需用費	児童用しおり、生徒読本	685
委託料	看護業務委託	1,004	報償費	現地指導員謝金	176	報償費	現地指導員謝金	464
使用料賃借料	児童生徒輸送用バス	16,569	役務費	応急治療費	21	役務費	応急治療費	75

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	児童参加率	0.995	0.988	0.973	1	1	参加者/在籍者（5月1日現在）
	生徒参加率	0.960	0.995	0.962	1	1	参加者/在籍者（5月1日現在）

（問題点・課題分析）	雨天時の受入施設の確保や施設の老朽化対策を踏まえ財政面、運営面において効果的・効率的な実施方法の確立の検討が必要。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
情報の共有により、移動教室実施における類型化されたトラブルを防止するとともに、連携を図ることによりスムーズな移動教室の実施方法を確立する。	・怪我や事故等の情報を共有化し、安全な移動教室の実施を図る。
限られた財源の中で、社会教育課と連携して小破修繕の優先順位をつけ、改善依頼をする。	・児童生徒にとって危険個所や利用が不便な個所の改善を施設管理者の生涯学習課に依頼する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。

議（要旨）	況（質問状）
-------	--------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-07	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	下田移動教室		部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	
			担当者名	石井	内線	3383	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-02	下田運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	58 年度	根拠法令等	移動教室実施要綱（下田）			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	教育課程の一環として移動教室を実施することにより、児童・生徒の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養う。また、集団行動、集団生活を体験させることによって、連帯感や責任感及び自主的な生活態度を育成する。						
対象者等	小学校6年生、中学校2年生（全員） 実施時期 前期5月～7月 後期9月～10月						
内容	<p>各小・中学校が教育内容に工夫を凝らして実施している。</p> <p>【コース例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・須崎～爪木崎ハイキング ・下田市内散策 ・寝姿山登山（ロープウェー） ・河津七滝巡り</li> <li>・外浦、爪木崎、恵比須島、まどが浜、田牛サンドスキー場等での磯生物観察、レクリエーション等</li> <li>・あじの開き、海草押し葉、竹細工、シーカヤック等の体験学習 ・現地指導員学習会 ・魚市場見学</li> <li>・施設見学等（下田海中水族館、小田原城址公園、柿田川湧水、修善寺サイカス<sup>®</sup>-ツタン<sup>®</sup>-、地球博物館）</li> </ul> <p>【移動教室運営経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賄費（朝・昼・夕）・・・給食業務委託</li> <li>・交通費（小学校・バス3日間借り上げ、中学校・往路&lt;1日目&gt;と復路&lt;3日目&gt;輸送）</li> <li>・看護業務委託（平成16年度から委託契約）</li> <li>・引率教員旅費、現地指導員謝金、消耗品、応急治療費等</li> </ul>						
経過	昭和58年より実施している。						
必要性	児童・生徒の自然に親しむ心を培い自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養うため、また、集団生活を通して連帯感や責任感及び自主的な生活態度を育成するため必要。						
実施方法	( 2一部委託 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		37,850	38,878	40,794	42,238	38,823	40,980
決算額（26年度は見込み）		31,600	31,717	33,688	36,135	33,913	34,822	43,209
人件費等		5,600	6,275	7,067	5,178	1,896	2,025	
減価償却費				6,101	5,909	2,259	2,366	
【事務分担量】（%）		180	210	210	190	70	70	
合計（+ +）		37,200	37,992	46,856	47,222	38,068	39,213	43,209
特定財源	国							
	都							
	その他	下田移動教室賄収入	3,549	4,309	4,485	4,718	4,533	4,721
一般財源		33,651	33,683	42,371	42,504	33,535	34,492	38,221
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	小学校 参加児童数	1261	1226	1194	1320	1303	1306	
	バス借上げ台数	43	42	42	45	44	44	
	中学校 参加生徒数	992	930	1048	1042	965	1055	
	バス借上げ台数	56	51	65	70	62	65	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	現地指導員謝金	216	使用料等	バス・寝具借上げ	17,188	使用料等	バス・寝具借上げ	21,302
旅費	引率教員等	454	委託料	給食賄	14,856	委託料	給食賄	15,804
一般需用費	しおり、生活用品等購入	1,408	委託料	看護業務	941	委託料	看護業務	1,203
役務費	応急治療費、畳乾燥	451	一般需用費	しおり、生活用品等購入	679	一般需用費	しおり、生活用品等購入	2,088
委託料	看護業務委託	1,005	報償費	現地指導員謝金	198	報償費	現地指導員謝金	261
			旅費	引率教員等	508	旅費	引率教員等	2,028

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	児童参加率	0.979	0.989	0.980	1	1	参加者/在籍者（5月1日現在）
	生徒参加率	0.996	0.981	0.972	1	1	参加者/在籍者（5月1日現在）

問題点・課題 （指標分析）	雨天時の受入れ施設の確保や施設の老朽化対策等を踏まえ、財政面、運営面において効果的・効率的な実施方法の検討が必要。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
実踏説明会や実地踏査時に、災害時の安全対策や実地方法等について、担当教員へ周知する。情報の共有により、移動教室での類型化されたトラブルを防止し、学校との連携を図る。	けがや事故等の情報を共有化し、学校との連携を図り、安全な移動教室の実施体制を図る。
施設内の老朽個所、危険個所及び程度を把握し、児童・生徒に危険が及ばないように応急処置を行うとともに、児童・生徒にとって危険個所や不便な個所を施設管理者の学務課に随時報告する。	限られた財源の中で、学務課と連携して小破修繕の優先順位をつけ、修繕計画をたてる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。

議 会 質 問 状 （ 要 旨 ）	
---	--